

## 仲間と共に助け合いの輪を広げ、何事も楽しんで通ろう

私たち学生がいにいをかけられる方法の一つに助け合いがあります。論達第四号の中に『人救けたら我が身救かる』と、ひたすらたすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていく」とあります。助け合いは身近にできることです。人に喜んでもらいたい、助かってもらいたいという心遣いや行動は、一見相手だけが助かるものだと感じてしましますが、人の助かりを願う中で、自然と相手も心は晴れやかになり、互いに助けられた状態になるのです。一人一人が人のためを思う行動を日々心がければ、助け合いは自然と実践できます。また、自分の置かれている環境や身の回りの御守護に感謝することができ、何事も楽しんで通れます。その姿は親神様・教祖もお喜びくださいます。助け合って感じた人とのつながり、御守護から感じた親神様とのつながり。これらのつながりは尊く、有り難いものです。年祭活動の旬に有為なるようべくへと成人していくため、次の三つの柱を実践し、「仲間と助け合い、つながりを大切にする学生会」を一緒に目指していきましょう。

### 一、低い心で通ろう

低い心とは謙虚な心です。低い心で通るためには、人や物事の背景を考えることが重要です。低い心で通れば、相手や物事に対して不足に思うようなことがあっても、相手の良いところやプラスなことに目を向けることができ、仲間の存在の有り難さや身の回りの御守護に気付けます。その気付きからより仲間と助け合いたいと思えるようになります。仲間と助け合いの輪を広げていくため、何事も楽しんで通るために低い心で通りましょう。

### ○「有り難い」をみつける

低い心で通るために、日常の中の有り難いことをみつけてみましょう。朝起きられることや人と話せることなど、一見当たり前前にも思えるようなことにも有り難いことが詰まっています。人や物事の背景を考えて、有り難いことをみつけていきましょう。

### 一、身近な人に喜んでもらおう

人に喜んでもらいたいという心遣いがあれば、自然と心は相手に向き、より人のためを思えるようになります。当たり前だと思っていたことにも感謝できるようになります。まずは、身近な人に喜んでもらえるように心を遣って人とつながり、助け合っていきましょう。

### ○声をかける

人に喜んでもらう上で特に、声をかけることを意識しましょう。相手のことを知るためにも必要であり、助け合っていく中で声をかけることはとても大切なことです。声をかけるだけでも誰かの助かりにつながります。まずは声をかけてみましょう。

### ○仲間を頼る

仲間を頼ることも人に喜んでもらうことの一つです。人のためを思うからこそ不足してしまうことや、一人で抱え込んでしまうことがあります。そのような時こそ仲間を頼りましょう。自分では気付けなかったことに仲間は気付かせてくれます。仲間を頼り、共に助け合っていきましょう。

### 一、おつとめをしよう

おつとめをして人の助かりを願ったり、日頃の御守護への感謝を伝えたりすることで、親神様とのつながりをより感じることが出来ます。また、自分が辛い時や有り難いことに気付けない時、一人で抱え込んでしまう時に、おつとめをして親神様と向き合い、もたれることで自分の考えが改まって有り難いことに気付けるようになります。おつとめをして、親神様にもたれていきましょう。